



『日蓮の思想史的研究』（佐々木馨著  
山喜房仏書林）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8691">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8691</a>

【図書紹介】

『日蓮の思想史的研究』（佐々木馨著 山喜房仏書林 平成二十三年（二〇一一）十月 全六六八頁）

北海道教育大学釧路校准教授

佐野 比呂己

著者佐々木馨（現、北海道教育大学函館校教授）は、教学研究の立場でなく、思想史の側から日蓮を読み解き、日本中世の国家と宗教の構造などを明らかにしてきた。日蓮には後世の仮託など、実像と虚像が交錯する部分があるが、仮託本は排除し、真筆本から実像を探り、中世思想史上に日蓮を位置付けた。本書は、佐々木の処女論文「日蓮における神祇史観の変遷について」（『秋大史学』第二十号 秋田大学史学会 昭和四十八年（一九七三）以降の日蓮論二十本を集大成した論文集である）。

目次は左記の通りである。

緒言

研究史の概観

前編 生涯・受難・結晶

第一章 「法華経の行者」としての生涯

第二章 弾圧・受難の歴史的背景

第三章 「法華経世界」の構築

中編 国家・民族・宗教

第一章 国主観と天皇

第二章 国主観と武士

第三章 「日本国」観と華夷意識

第四章 「エゾ」観と北方意識

第五章 蒙古襲来の比較宗教史的考察

第六章 神祇観の変遷と「法華経神祇」の創出

第七章 真言密教批判について

第八章 「四箇格言」の成立

後編 歴史・世間・人間

第一章 末代・末法観と正法観

第二章 日本仏教史の構想

第三章 「法華経世界」と史話活用

第四章 「法華経世界」と和歌文学

第五章 外道と外典

第六章 中世日本の二人の天台僧

第七章 女人往生の中性的論理

第八章 「法華経」と疾病観

第九章 世俗性とその超克

佐々木 肇 著

## 日蓮の思想史的研究

山書房佛書林

〔附録〕 日持伝の史的考察

結語

日蓮略年譜

主な引用資料

おわりに

初出一覧

索引

前編の「生涯・受難・結晶」では、「法華経の行者日蓮」の伝説を時系列に即して検証した部分であり、鎌倉幕府との対決の中に弾圧背景を探っている。日蓮の生涯や受難について描き、日蓮が比叡山山門派の流れをくむため、寺門派の系譜にある鎌倉幕府から弾圧を受けたことなどを述べている。中編の「国家・民族・宗教」では、日蓮自身が関心を持った国家や民族、宗教について、遺文から考察し、日蓮の闘争的な自己主張を扱っている。後編の「歴史・世間・人間」では、歴史観や世間に対する日蓮の思想を探り、思想的ないし人間的側面を照射した部分であり、歴史学に即した日蓮論を提示している。

鎌倉新仏教の祖師の中で、日蓮は激しい他宗批判を繰り広げたことで知られ、祖師の中でも日蓮は最後に出てくる。それを乗り越えるための批判でもあったのである。体制を志向し、懷疑し、最後は超克した仏教者の生涯と思想を論述している。

佐々木の緻密でダイナミックな研究に敬服する次第である。